

森林の整備



緑のボランティアの森記念造成事業「いずみの森 21」

大阪府泉佐野市



事業概要

稲倉池を囲む約30haの里山林は、薪炭、飼料や肥料の採取地として活用されてきたが、1960年代の燃料革命を境に経済的価値が減少し放置林となった。このため、本来の里山の姿に戻すとともに、森林ボランティア活動教育など人材育成を目的とする活動を開始した。

その後、近畿でも「ナラ枯れ」被害拡大を受け、数年前より冬季にはコナラ大径木の間伐（薪等へ再資源化）を行い、

夏季には密集灌木の除伐、陽光遮断改善の間伐や下刈に移行し、里山としての姿を戻すべく活動中。

事業成果

令和2年は池の反対側にナラが集中発生、安全対策上の伐倒をするも拡大の危険がある。

参加者の声

コロナが収まるまでは我慢するしかありません。



サクラの美しい里山



危険木の処理



下刈



間伐

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.01ha
間伐面積：0.1ha
枯死木など伐倒：28本

参加者数

府内：184人
計：184人

玖珠町ふれあいの森づくり事業

大分県玖珠町



事業概要

多くの町民ならびに企業・ENEOS(株)のボランティア参加を募り、大分玖珠地域の里山に生物多様性に富む豊かな生態系と美しい景観を創出し、人と森との共生する文化の創造に資する。

事業成果

シカネット設置をしたことにより、活動区域内の樹木が動物の被害にあわなくなった。

コロナ感染予防のため、2回計画した森林整備活動が実施できなかったが森林整備の維持活動ができた。



下刈



シカ防護ネット補修



シイタケ植菌



林内にほだ木を並べる

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.98ha
シカ防護ネット補修：30m
シイタケ駒打：2000駒
クヌギ伐採：30本

富士山緑の募金の森造成事業

静岡県富士宮市



事業概要

平成8年9月の台風7号は、富士山南東斜面に風倒木など甚大な被害を与え、本箇所は、その復旧を目的に開始された事業である。国土緑化推進機構が行う「国土緑化運動50周年記念事業」として、「国民参加の森林づくり活動」の場として、多くの森林ボランティア団体に呼びかけ、今日まで実行委員会方式で緑の募金中央事業として実施してきている。

事業成果

今年度は、植生調査等を継続するとともに、定期的に防

シカ柵の巡視等を実施した。なお、区域内にシカの侵入が見られ、ヒノキの皮剥ぎ被害等が発生した。企業参加による森林体験活動は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・台風被害跡地への植栽開始から20年が経過し、ヒノキ林・広葉樹林ともに順調に生育しているものの、一部シカによる森林被害が見られることから、シカ対策の強化が必要である。



シカによる皮剥ぎ被害を受けたヒノキ



シカによる皮剥ぎ被害を受けたヒノキ



破れた防シカ柵の修繕

実績とりまとめ

作業内容

- 歩道整備：200m
- 作業道修理：50m
- シカ柵保全巡視：2300m

参加者数

- 県内：58人
- 計：58人

さいたまの森林づくり支援事業

埼玉県桶川市、越生町、ときがわ町、三芳町、小川町



事業概要

埼玉県内において森林ボランティア体験事業（植樹、間伐、下刈）を実施する企業や学校等に対し、安全に活動できるよう支援・指導する。これにより地球温暖化防止のための森林整備が進み国民参加の森林づくり運動に寄与することを目的とする。

事業成果

予期せぬ事態（コロナ禍）の中でも、小学生に安全な森林作業体験活動をしてもらうことができた。また、3月には屋敷林の植樹も基本的なガイドラインに沿った活動を行い安全に実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・都市部の方々が森林整備活動を体験することは森林の大

切さを知るよい機会である。また、山村部に住む小学生も、生活環境の変化等で自然と向き合う機会が少なくなっており、このような体験により森林への興味が持てたのではないかと思う。コロナ禍のなか屋敷林の植栽活動も工夫して実施しており、今後の活動の参考になる。（緑推関係者）

参加者の声

- ・こんなに大きな木を伐ったのは初めてで、とても良い体験になった。（小学生）
- ・生徒達の感謝の声や次回の植樹体験参加を約束し、子どもたちと笑顔でお別れした楽しい間伐体験会だった。（参加クラブ員）



小学生の間伐体験



屋敷林での植樹



植樹の準備



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：15本
 下刈面積：4.8ha
 除伐面積：2.3ha
 間伐面積：4.7ha
 森林調査：2.0ha

参加者数

県内：198人
 計：198人

樹種

ヤマツバキ、サンゴジュ

湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県湯河原町



事業概要

湯河原町の協力を得て進める企業の森は、水源林として下層植生の豊かな水源かん養機能の高い森林づくりをめざしている。生物多様性など森林のさまざまなはたらきへの理解を深めるため、間伐等の森林づくり活動・自然観察会等の環境教育活動などを継続的に実施している。今年度は、夏に活動を予定していたが、コロナ感染拡大の関係で中止となった。なお、基盤整備は例年通り行った。

事業成果

コロナ禍で企業社員による体験活動は実施できなかったため、①森林インストラクターによる基盤整備の取り組み②森林の植生を広報誌を使って紹介を行った。さらに、活動地の広場へのアプローチを拡幅して改良するために間伐材を多く利用する工法を試験的に導入、次年度以降へのノウハウを取得した。

事業をよく知る関係者の声

- ・体験活動で行う予定だった植栽地の下刈や経路補修作業



下刈作業後



経路整備や看板清掃を行った

の手順・指導方法を確認しながら試行した。

- ・活動日ごとに、活動エリアを巡回し、あわせて植物などの調査を行い、新たな植物も確認でき自然観察は時期を問わないことを再認識した。
- ・体験活動ができなかったため、シイタケの発生時期における収穫につながらなかった。
- ・社員の皆さんに、「万葉の森」の様子やインストラクターの整備活動の様子を「森だより」や「動画」で伝えたが、直接ご意見や感想などの反応が伺えなかったのは残念だった。
- ・新規にセンサーカメラを1台設置したので、新たな生き物の確認が期待できる。
- ・今後の活動では、植栽して8年になる少花粉スギの枝打ち、経路木段づくり、間伐後乾燥している材の利用、広葉樹の実生樹を育てるために整備した苗床（畑）の利用、癒しの場ともなる水源地の利用などがあり、体験活動の再開が待たれる。

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.05ha
 経路整備：20m
 植生調査：1500m
 (経路沿い)

南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県南足柄市



事業概要

住友三井オートサービス(株)による企業の森づくり体験活動が円滑に推進し充実した成果を上げるため、当財団の森林づくり活動に係わる蓄積したノウハウを活かし、活動計画の作成、それに基づく森林整備や環境整備、森づくり活動の指導などを行う。内容は、コロナウイルス感染症の問題があるため、SMASの事務局による少人数の現場活動を行った。また、WEB会議を用いたりリモートでの森林教室やクラフト教室を試験的に実施する予定だったが、準備が整わず中止とした。なお、基盤整備は例年通り行った。

事業成果

フィールドでの活動は一部に限られてしまったが、リモートでのクラフト体験を計画することができた。材料の配布など課題が生じて実施に至らなかったが、新たな活動方法の可能性を見出した。また令和元年から、ナラ枯れ被害が、フィールド内で確認されたが、予防対策の試行や被害

発生前の活用を基盤整備活動の中で取り組むことができ、今後の森林整備活動へ被害木処理や材の活用を盛り込むことが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

予定した計画内容が実行されないことによって、いろいろ考えさせられる1年となった。自分たちがこれまでの企業の皆さんの成果を絶やすことのないよう基盤整備に取り組むとともに、フィールド周辺で拡大するナラ枯れに対しても、予防や利活用にも取り組んでみた。特にナラ枯れに対する取り組みは、次年度以降の活動に活かしていきたい。(森林インストラクター)

参加者の声

- ・マスクをしながらの下刈・間伐でいい汗を流せました。森の醍醐味を感じることができました。
- ・緑に囲まれながらマイナスイオンをたくさん浴び、リフレッシュできました。(企業担当者)



下刈



間伐



自然観察



MASの森

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.001ha
 間伐面積：0.1ha
 植生調査：4ha
 毎木調査：18か所
 林内整理：0.05ha
 自然観察

参加者数

計：33人

「赤西溪谷・水源の森」保全事業

兵庫県宍粟市



事業概要

(株)日本触媒および森林管理署と協働して森林整備などを行うことにより、環境林、水源かん養林を保全するとともに、あわせて自然保護、生物多様性について理解を深めることを目的とする。予定された企業の従業員などによる3回の森林整備活動は、新型コロナウイルスの感染防止などのために全て中止となったが、NPO会員主体で以下の活動を実施した。①令和2年11月に活動地の状況を調査するとともに、以降の活動の課題や必要な作業について検討をした。②令和3年4月に企業の担当者と会員で再度現地を訪問し、活動地の状況調査と活動の課題や必要な作業について再検討をした。③例年8月に企業の従業員などにより実施していた植樹地の下刈ができなかったため、令和3年8月に企業担当者と会員で下刈と獣害防止柵の保全作業を実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの感染防止対応のため、計画された

企業による森林保全活動が中止となり、企業担当者と会員による活動の中で以下の新たな成果が得られた。

平成30年に企業の従業員が植菌したほど木にシイタケが多数発生し、企業担当者に森のめぐみを確認していただいた。植樹地で、大きく成長したヤマザクラの獣害防止ネットを取り外し、雪害や獣害で変形や倒れた樹脂製ネットの一部をワイヤメッシュ柵に取り換えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ひょうご森の倶楽部関係者の協力のもと、事務局で春と夏に現地確認を行った。当日は下刈など維持管理の作業にも取り組み、普段味わえない経験ができた。今後の社内イベント活動再開を楽しみに関係者と連携しながら取り組んでいきたい。(企業の活動企画担当者)

参加者の声

- ・今回、獣害防止網の傷んだものについて、網と支柱を鉄製に取り替えた。作業は大変だったが、効果は絶大だと思う。(70代会員)



植え替えたエドヒガンの活着確認



植樹地の下刈



獣害防止柵の保全



発生したシイタケ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
現地調査：2回
獣害柵保全：1回

参加者数

県内：21人
県外：5人
計：26人

緑のボランティアの森記念造成事業「フォレスト21さがみの森」

神奈川県相模原市



事業概要

目的は、「多様性」と「持続性」をテーマとした国民参加のモデルフォレストづくりを一層推進するために、活動を通じて「森と人」「人と人」の関係を再構築し森づくりの輪を拡げるとともに、持続可能な地域社会の基盤となる、生態系豊かな森をつくり、活かす事業の展開をめざすことである。主な活動は、①生物多様性や地域の環境に配慮した森林造成活動、②健全な森づくりのための知識・技術のスキルアップ、③地域・企業・学校等と連携し、自然とのふれあいを通して学ぶ森林環境教育、④森林環境のなかで心身をリフレッシュできる活動など。

事業成果

今年度の主な成果はフィールド周回作業道の補修が完了し災害復旧ができた。土砂が崩れやすい箇所へ広葉樹60本植栽ができた。長く手入れができていなかったフィールドでの方針が決定し、より多様性の高い人工林の育林活動が

できた。森林空間を活用したプログラムの開発とモニター実施が1回できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・20年以上ボランティアの手が加わり続けたことで、林床が比較的明るく、単調な植生にならずに何とか多様性が維持されてきたと言える。(植物調査協力者)
- ・作業道周辺の土壌に水と空気の流れを取り戻すと、植生や生物相も豊かになり、かつ災害にも強い森により近づくのではないかと。(造園技師)

参加者の声

- ・林業の仕事に就くことはできないけど、自分のできる範囲で森にも自分にとって良い活動があることを知って良かった。(30代女性)
- ・常連の方ばかりで緊張したが、皆さん親切にご指導いただき楽しく過ごせ勉強にもなった。



道づくり(災害復旧活動)



枝打ち(定例活動)



補植イベント



夜間ライトトラップ(昆虫観察イベント)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：60本
 下刈面積：0.05ha
 除伐面積：0.3ha
 間伐面積：1ha
 森林資源活用：1回
 作業道整備：155m
 枝打ち：0.4ha
 ベンチ補修：2回
 イベント・講習：1回
 生物調査：14回

参加者数

県内：106人
 県外：141人
 計：247人

樹種

ウリハダカエデほか

木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育

東京都八王子市



事業概要

東京都八王子市裏高尾町にある木下沢下流域の森林を対象に、市民の憩いの場、レクレーションの場、多くの生物が息する場として利活用できる森林にしていくことを目的として、次のような活動を行っている。①歩道・遊歩道、ふれあい広場等の整備、②間伐、風倒木の処理・植樹等の森林整備、③裏高尾・木下沢渓谷連絡会議と連携した情報の共有、④自然とふれあい自然を知る行事の企画・提供、⑤イベント参加者による生物多様性に即した環境づくりの実施と学習。

事業成果

新しい拠点・整備エリアができたことから、周辺生物調査を行い、認知向上に向けたガイドブックの作成も続けて行った。こうした活動によって定期的に参加するメンバーのコミュニケーションは活性化した。また、イベント実施における指導者や協力スタッフの担当制が機能するようになり、結果初回参加者や親子の満足度の高い植樹や間伐を含めたプログラムが実施できるようになった。コロナウイ

ルス感染拡大に伴い、1～2月は一般向け活動ができなくなっていたが、主たるメンバーを中心に感染を防止しながらプログラムができる体制づくりを早い段階から行い、6月には人数制限をかけた上で親子体験が実施できた。対策をした上でプログラムを展開できたことは大きな成果と考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・紙漉きや染め物の実体験をしてみたい、竹編みなどの工作をしてみたい、虫や生き物の話も聞きたい。(活動のリピート参加者)

参加者の声

- ・ノコギリで木を切り倒したのが楽しかった。(小学生)
- ・木を切ってコースターを作ったのが楽しかった。(小学生)
- ・サワガニがたくさん取れて楽しかった(小学生)
- ・まっくろくろすけを作ったり、種を飛ばしたり、葉っぱのおいを嗅いだり、普段体験できないことを楽しんでいた。(小学生の親)



道づくり体験(プチ体験イベント)



間伐



竹林整理跡地での植樹



水生昆虫採取&沢遊び(プチ体験イベント)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：80本
 下刈面積：0.1ha
 除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.3ha
 作業道整備：300m
 生物調査：5回
 イベント：7回

参加者数

都内：204人
 都外：68人
 計：272人

樹種

オニグルミ、ホオノキ、ヤマザクラ、ヤマグリ

協働によるSDGsの森づくり事業

宮城県利府町



事業概要

ENEOS(株)や地域ボランティア、小中学校などが協働し、人々が集まりやすい場所にある森林を整備し、未来へ緑を引き継ぐための植樹活動や、子ども達が気軽に森づくりや自然体験を楽しめるフィールドづくりを行う。また除伐・枝打ち・遊歩道づくり等の活動は、森林ボランティアが強力に進めるとともに、子ども達の体験としても実施し、「森での学び」の機会を数多く創出するとともに、森林での整備や遊びなどの実体験を通して、健全な森と人を育むこと目的とする。

内容としては広葉樹や針葉樹の植林活動や地域森林ボランティアの育成、遊歩道材等への間伐材有効活用、子どもを対象とした環境教育・減災教育活動、広葉樹枯損木の処理などの活動を実施した。

事業成果

県内の小学校や協働企業ボランティアの他に地域ボラン

ティアを対象としたイベントを実施、森づくり活動への参加者の幅を広げることができた。またコロナ禍でイベント数は減ったが大規模な枯損木伐倒処理作業を積極的に行い、林内の安全確保に努めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今まで散策していて気になっていたナラ枯れが次々と処理できて良かった。これでもまだ大きな枯損木が残っているので、これからも積極的に処理したい。(60代ボランティア)

参加者の声

- ・実際の機械を使いながら、体験的に作業方法を学ぶことができて良かった。(講座参加者)
- ・切った枝でのネイチャークラフトが楽しかった。(未就学児女子)
- ・コロナ禍、子ども達が活発に活動できる場をつくってもらえて良かった。(小学校教員)



小学生による施肥と植樹



植樹指導(地域森林ボランティア講座)



枯損木の伐倒処理



チェーンソー研修会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
 植付本数：85本
 樹勢回復：87本
 下刈面積：3.6ha
 除伐面積：3.2ha
 森林資源活用：2回
 クラフト体験：3回
 遊歩道整備：490m

参加者数

県内：439人
 計：439人

樹種

コナラ、サクラ、ヤマブキ

日本曹達グループの森づくり事業

新潟県上越市



事業概要

日本曹達グループが起業してから100年を迎えることから、起業の地である新潟県上越地域の「くわどり市民の森」内で、地域に貢献するため、新潟県民・上越市民に親しまれる森づくりを実施する。本年度は、事業を円滑に推進するための協議会の設立、全体計画の樹立のためのドローン撮影とその解析、スタートすることを広く周知する看板除幕式、森林整備（除伐、下刈）、植樹（モミジ、アジサイ）を実施した。

事業成果

本年度は、事業を進めるための協議会の設立、全体計画

樹立、事業の周知等の調整に大幅に時間を取らざるを得なかった。

事業をよく知る関係者の声

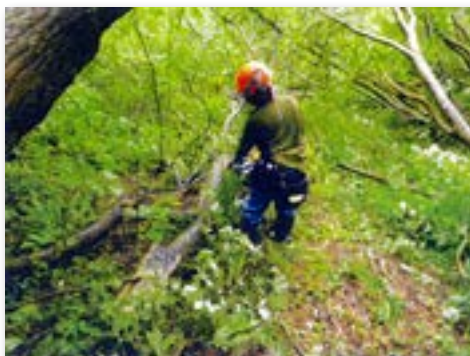
- ・森林整備を推進することができ、とてもありがたい。（上越市や公園指定管理者）

参加者の声

- ・技術や経験を通じて地域に貢献できてありがたい。（推進協議会構成員）



刈払い



伐採



林地を整備



除草後にモミジほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：41本
下刈面積：0.1ha

樹種

モミジ、アジサイ

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町



事業概要

「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とし、和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS株式会社麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で和木町有林約7haの整備を平成23年12月から継続している。

事業成果

新型コロナウイルス感染症拡大により、当初の計画通りには事業が進まなかった。予定していたエネオスの森事業は、感染症拡大防止のためにENEOS社員の参加が見込まれなくなったため、和木町里山研究会の会員が草刈り等の作業を行った。クリ拾いのみでも体験してもらうことはできないかと計画していたが、それも実現がかなわず、里山研究会会員のみで行った。作業後クリ30kgを提供、山の恵みを感じていただけるようにした。

また、2～3月に予定していた和木小学校でのシイタケ

植菌体験は、冬季の感染拡大を懸念して10月にノコギリ体験として小学生たちに木を切ってもらった。準備した木材は、前日に伐採したクリやヤマモモなどだった。

事業をよく知る関係者の声

- ・冬季の新型コロナウイルスの感染拡大を事前に予測して、秋季に小学校で森林体験学習を実施することができ良かった。また、初めての試みであるノコギリ体験も好評だった。小学生は水分を多分に含んだ山の木を切る体験はなかなかできない。この経験を通じて、家具などで使用されている木材の加工前の姿を見ることができたのが良かった。(町職員)

参加者の声

- ・こんなに大きな木を切るのは初めてだった。(10代女性)
- ・子どもたちがみんなで木を切ることができて良かった。(80代男性)



小学生のノコギリ体験



前日に伐採した木やタケでノコギリ体験



収穫したクリを活かしたメニュー

実績とりまとめ

作業内容

クリ拾い：12日
ノコギリ体験

参加者数

県内：85人
計：85人

木曾川・やおつ水源の森づくり活動

岐阜県八百津町



事業概要

木曾川流域に生活する住民に潤いと安らぎを与える自然豊かな水源の森を整備し、水源涵養機能を充実するとともに森林生態系や生物多様性について学ぶことを目的として実施してきた。海拔500mの高原を会場とし、下流域にて生産活動を行うキリンビール(株)名古屋工場の従業員と家族や流域に生活する地域住民及び地元住民が協力し合い、サクラの間伐、遊歩道の補修、下刈などの活動を行うとともに間伐材を利用した箸づくり体験などを実施した。

事業成果

新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティア参

加の交流を含めた整備事業は中止したが、地元ボランティアによる下刈を秋に実施した。夏は業務委託による下刈による水源の森の保全、整備に努めた。11月には、サクラの勉強会を昨年引き続き実施し、参加者に知識や技術を身につけてもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・1年以上も事業に参加していないと忘れてしまうので、草刈りだけでもやれて良かった。(男性)

参加者の声

- ・水源の森でサクラの勉強会ができて良かった。剪定等のコツを実践しながら学べ、ためになった。(40代男性)



整備活動



下刈



サクラの勉強会



剪定作業などをしながらサクラについて学んだ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：3.3ha
除伐面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数

県内：47人
計：47人

3.11 復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼海岸林再生事業

千葉県山武市



事業概要

津波によって枯れた千葉県山武市蓮沼下海岸防災林の再生を進めて、被災地住民の生活環境の回復を図るとともに、それを通じて「海岸防災林と住民との共生」を創り直すことを目的とする。あわせて、ボランティア活動の継続性の向上を図る。

①津波の浸水により塩害で枯れた木々の撤去とチップ化処理と敷き詰め及び転圧、②海岸林に適した樹種(抵抗性クロマツ)の植林。

事業成果

コロナ禍のマイクロツーリズムが叫ばれているなか、今年度は、千葉県内からの参加者募集をした。範囲を絞ったにも関わらず、40人の参加があった。これは、ここで10年続けてきた緑化活動が定着してきたことといえる。

事業をよく知る関係者の声

- ・最近、地震があった。幸い津波はなかったものの、2011年の光景を思い出した。海岸林の機能が弱かったり喪失していたりしていた地域の住宅被害が酷かったこともあり、海岸林づくりは大切であり有意義なことだ。これから間引きが始まる、長くこの事業に参画していきたい。(樹木医)

参加者の声

- ・数年ぶりに活動に参加した。前回植えた苗木も育っていた。今日植えるクロマツもきちんと育ってほしい。(30代会社員)
- ・緑化の大切さを子どもに伝えたくて、家族で参加した。(30代会社員)
- ・1000本を超える植林と聞き、大変そうだなと思いながらの参加だったが、ボランティア一丸となって行ったら見事に植え切ることができた。力が集まることの凄さを感じた。(50代会社員)



抵抗性クロマツ



ていねいに植樹



2000本を植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2000本
伐採、地拵え：0.2ha

参加者数

県内：35人
県外：5人
計：40人

樹種

抵抗性クロマツ

白子町海岸保安林整備事業

千葉県白子町



事業概要

東日本大震災に伴う津波や松くい虫の被害により無立木地化した白子町の海岸部に広がる保安林において、潮風や飛砂を遮へいするなど防災機能等の強化を図ることにより、生活環境の保全形成を図ることを目的として、海岸の厳しい環境でも生育することができる抵抗性クロマツの植樹を行った。

植樹を実施するにあたって、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が延長されたことにより、植樹をする予定であったみどりの少年団の参加が困難となったが、地元白子町のボランティアや町職員の参加を得て植樹を行った。

事業成果

新たな場所に植樹を行い、次代の保安林を増やすことができた。緊急事態宣言の延長で白子町みどりの少年団の参加が不可となってしまったが、町職員等がランテニアとして協力してくれたので無事に実施できた。少人数であった

が、コンテナ苗であったこともあり、効率的に植樹を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナウイルスの影響で中学生が参加できないのは残念だったが、白子町職員等の協力により実施することができて良かった。植樹場所の土が固くなってしまい、穴を空けるのに手こずった。参加者が真剣に取り組んでくれたので短時間で植えることができた。(町職員)

参加者の声

- ・砂丘に植えたクロマツが大きく育って保安林の機能が強固になってほしい。(町職員)
- ・美しいマツ林になってほしい。今後もマツ林の再生の活動を続けてほしい。(町職員)
- ・コロナが収束していれば中学生の思い出になったと思う。(町職員)



植樹前の海岸



植樹方法の説明



抵抗性クロマツを植樹



コンテナ苗を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.18ha

植付本数：900本

参加者数

県内：26人

計：26人

樹種

抵抗性クロマツ

「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業

宮城県岩沼市、仙台市若林区



事業概要

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸域の海岸防災林について、その再生に向けて地域住民等との協働により保育活動を行いながら、失った「みどり」の重要性やその働き等への理解と関心を深めてもらい、海岸防災林再生に対する気運の醸成と、「みどりの文化」の普及啓発を図る。

事業成果

子どもたちの参加を促すことに力点を置いた。日常生活で様々な制約を受けている子どもたちが、楽しく元気に草取りやツル取りに励む姿は印象的であった。活動に全面的協力を頂いた団体が、創意工夫により被災地の自然環境の回復状況の観察や釣り、ビーチコーミングなどの活動を組み合わせながら体験学習を行ってくれたこともあり、引率教師から「充実した活動」であると感想と引き続き活動したいとの要望をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちはクロマツ苗の節(枝)を数え、その年月に思いを馳せながら一生懸命に草を抜き取っていた。帰り際にクロマツ苗に向かって「また来るから絶対に大きくなるんだよ」などと声をかけている姿を見て、子どもたちと海岸防災林の繋がりが生まれたことを感じた。大きな意味のある時間になった。(仙台市立小学校5年担任)

参加者の声

- 海岸防災林の成長をふさいでしまう草木があることを初めて知った。募金しようと思った。(小学5年男子)
- 防災林は津波からの被災を少しでも抑えるためにあることがわかった。貴重な経験を沢山でき、緑の募金に積極的に協力していきたい。(小学5年女子)
- 保育活動に参加できて大変良かった。海岸防災林の大切な役割などがわかった。(30代女性)



仙台市立錦ヶ丘小学校5年生による海岸防災林保育活動



仙台市立南材木町小学校5年生による海岸防災林保育活動



企業社員による保育活動



親子で保育活動

実績とりまとめ

作業内容

保育活動：1.43ha
イベント：6回

参加者数

県内：493人
計：493人

3.11 復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業

千葉県一宮町



事業概要

3.11の津波の塩害によって、一宮町東浪見の海岸林も砂丘が削られるなど地域の暮らしを守ってきた海岸防災林がダメージを受けた。町ではオリンピックのサーフィン会場として誘致し、オリンピック終了後には、海岸林の機能回復をめざした緑化活動を計画している。本事業では、企業とともに、津波の被害を受けた千葉県一宮町東浪見海岸林の再生を図り、オリンピックを契機としたボランティアによる緑化活動の底辺拡大をめざす。

事業成果

予定していた植栽本数も植え終わることができ、海岸林の機能の早期回復に寄与することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植えるだけではなく、肥料や堆肥を混ぜる作業もあったので、大変だったと思う。早期に植栽への対応をしてもらい感謝しています。成長が楽しみです。(行政関係者)

参加者の声

- ・はじめて植栽ボランティアに参加した。思っていたよりも楽しかったので、次の草刈りボランティアにも参加したい。(協力企業社員)
- ・ライフセービングクラブに所属している。オリンピック会場への植樹ということでワクワクしました。植えた苗木が大きくなってくれると嬉しい。



植樹の説明



ていねいに植樹



抵抗性クロマツとトベラを植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.96ha
植付本数：7350本

参加者数

県内：16人
県外：53人
計：69人

樹種

抵抗性クロマツ、トベラ、マサキ

豊かな森づくりへの道 実働型次世代育成事業

神奈川県横須賀市



事業概要

原生林は、人間の経済活動に伴い姿を消してしまっている。原生林は気候変動対策としても、二酸化炭素固定吸収・防災・減災などの機能を発揮することから、土地本来の原生林に近い森を再生するプロジェクトを推進している。ベースとなる混植・密植方式は、半世紀の実績があり、そのノウハウを当法人は継承している。その上で発展させ低コストで時代に適したリノベーションした手法を次世代へ敬称するため『森林再生指導員認定制度』を2017年より開始し、学生へ無料の実働型次世代育成事業を推進している。土地本来の森の再生と次世代育成は、両輪が健全に機能することが目標である。

事業成果

四期生の受講は社会人9人となった。オンライン形式の音声講座がいつでも無償で聴ける環境を得たことで、森林再生指導員の受講申込みをする人の輪の循環ができ、放送

後の令和4年春の受講生は、20人を超えた。また、受講生は京都・山梨・長野など遠方から通う方もおり、場所的隔たりがありながらも受講生に欠席や遅刻はなかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・通常、こうした講座は座学が中心となり、知識として蓄積されるが、シルワの場合は実践が中心の完全な体験型研修の上に全日が野外での森の現場実修であり意義がある取り組みとなっている。情報過多により疲弊した若い世代の精神面のケアも同時に成している。(顧問)

参加者の声

- ・受講したことにより、植物や森、生物、地球への視点が変化したように思う。みんなに知ってもらいたいことばかり。これからも学びや実践を続け、森づくりにも携わっていききたい。
- ・これからもみ学びながら恩返ししていきたい。(四期生)



植生調査研修



植樹研修



水路づくり



基礎講座

実績とりまとめ

作業内容

野外講座：8日
野外実修：8日
森の学び：16日

参加者数

県内：21人
計：21人

森林環境保全型の自伐林業家養成事業

北海道七飯町



事業概要

個人所有林の未整備や放置が問題となっている。この問題に取り組むため、環境保全型の自伐林業家の担い手を育てるのが目的である。その方法として、七飯町大川の山林を借り、4工程8日間の講習会を実施した。講習内容は、①広葉樹施業とチェーンソー安全講習、②伐倒・造材・搬出、③作業道敷設講習、④作業道敷設講習。

事業成果

参加者は10代~70代と年齢幅も広く女性の参加者も多かった。この事から広い世代への普及の一步となったと思う。安全に森林の整備をしていく技術者が増えることで、地域の山林所有者にも整備していく事への理解と必要性を考えてもらう良い機会となりつつある。また、受講者間での交流により、今後も活動への継続可能な環境ができつつある。そして、具体的に森林保全活動への次のステップに繋がっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・普段、山に縁のない方が講習会に参加いただけたことは、今後の活動に良い影響があると思われる。特に木の名前や特徴などの情報提供には特段の反応があり、このような情報を併せ持った活動には展開力を感じた。(当会会長)
- ・指導の際はゆっくりと個別にを徹底して行って無事故で終わることができた。技術指導と同時に安全面の指導も継続して力を入れていくべきだと思う。(林業家)

参加者の声

- ・林業は自分には縁遠いと思っていたが、主催者が女性ということもあり自分にもできるかもしれないと思い参加した。参加者にも女性は多く、驚き、意識は変わった。(40代女性)
- ・体験できとても勉強になった。ますます林業に関心がわいた。(50代男性)



チェーンソー講習



伐倒講習



作業道講習



座学講習

実績とりまとめ

作業内容
講習会：4回
参加者数
道内：103人
道外： 2人
計：105人

間伐材の資源化プロジェクト

岩手県盛岡市



事業概要

化石資源が地球温暖化と環境汚染をもたらしている現状の改善をめざし、地球に負荷をかけない木質資源の活用拡大に寄与する。主な活動は間伐材の活用でボランティアによる持続可能な森林整備の実現をめざす事業である。間伐材資源化と活用法の啓発として、簡易な製材機の使用を実践するとともに多面的な木質資源の利用を習得する研修会・体験会を行う。

事業成果

間伐材から32m³を資源化して活用した。CO₂削減38トン。間伐材から薪づくりをして16m³をバイオマスエネルギーとして資源化した。

簡易製材機の研修会と木工教室を開催して、良質間伐材を材に加工して木製品を製作した。間伐材からほだ木をつくり、植菌による栽培技術を研修した。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材や風倒木も資源なので、ボランティアで資源化できるのは環境問題解決に有効で貴重な活動だ。技術を研鑽した参加者の作業は安心してまかせることができた。(団体代表)
- ・間伐材を製材加工し材として利用できるのは本当にありがたい。まだ未利用の木質資源があると思うので活動地域の広がりを期待したい。(会社役員)

参加者の声

- ・薪づくりで間伐材が立派な資源になるのはボランティアとしてやりがいがある。(60代男性)
- ・製材で余る背板も工夫次第で材に利用できる。販売できない間伐材も加工次第で価値が生まれるのは参加して知った。(60代男性)
- ・研修した木工技術を活かして次の作品にも取り組んでいきたい。(60代女性)



薪づくり(原木運搬)



薪づくり(玉切り作業)



木工体験(作品の加工)



キノコ栽培研修

実績とりまとめ

作業内容

薪づくり：8回
製材研修・木工体験：10回
キノコ栽培：3回
機材整備研修：1回

参加者数

県内：229人
計：229人

栗原市行者の滝周辺「癒しの森」植樹活動

宮城県栗原市



事業概要

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」により失った森林を再生させ、その地を「癒しの森」として人々に親しんでもらえる場とすることを目的としている。そのため、栗駒地域で育った苗を掘り取り、またドングリから育てた苗を植樹する取り組みを行っている。

事業成果

- ①植樹地はデコボコで湿地のところや大きな石があり人力での作業が困難なところもある。水のたまりやすい湿地には側溝を掘り水はけをよくしている。
- ②感染対策のために一般公募はせずに、これまで参加し

た人への案内に留めたが、会員でもいつもと同じメンバーしか集まれなかった。植樹は3年目で、すでに900本を植えている。年々植樹した面積も増えて、草刈りが大変になっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹地の一部に土を入れて植樹をしやすいようにした。敷地が広いので、まだまだ作業は続きそうである。(宮城北部森林管理署)

参加者の声

- ・コロナ禍の中、開催が危ぶまれたが毎年参加しているので今年も参加できて良かった。



排水溝づくり



コナラやミズナラを植樹



支柱を立てる



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：300本
下刈面積：0.3ha
竹の目印：0.2ha

参加者数

県内：140人
県外： 3人
計：143人

樹種

コナラ・ミズナラ

トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全

埼玉県所沢市、入間市、東京都東村山市、東大和市、武蔵村山市



事業概要

目的は、生物多様性保全を行うため里山環境を再生し、このような活動を普及し、経済・人力的支援に繋げ、持続的な里山管理をめざすことである。主な活動は以下のとおり。①里山管理ボランティア「何かし隊」、地域の協力団体を中心としたボランティア活動の運営と作業道具の確保、安全教育、作業環境の整備の実施。②里山保全活動の普及啓発のための各トラスト地解説看板の作成と設置。③新たなボランティア参加のための登録説明会と自立に向けた安全管理・里山管理技術を持ったボランティアの育成講習会の開催。④各トラスト地の管理を担うボランティアグループの確保・自立に向けた基盤整備。⑤危険・支障木等の処理。

事業成果

活動・講習会等は新型コロナウイルスの関係で中止が相次ぐこととなってしまった。しかし、その様な中でも1つの新たな協力団体を結成させることができた。また、2回

のボランティア登録説明会で、10人の新規登録者を得た。

今年度はナラ枯れの猛威にもさらされ、危険木・支障木が急増した。対策として事務局職員での管理作業や状況調査、外部委託作業を進め、処理優先度の高い危険木・支障木を処理することができた。今年度は新たなトラスト地を3箇所取得をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの未来のために、幅広い年代層を対象としたガイドツアーなど、とてもいい取り組みと思った。(協力団体女性)
- ・自然の中での作業は健康維持や気分転換にも最適だが、若い世代への引継ぎが問題だと思う。(協力団体男性)

参加者の声

- ・何かし隊の活動はいい運動になる。伸び放題で荒れたところほど伐採に力が入る。きれいに刈り終わったあとを眺め、ほっこりするのが楽しみ。(何かし隊・60代男性)



希少植物調査



ササ刈り



落ち葉掃き



アカマツの植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
 植付本数：50本
 下刈面積：8ha
 除伐面積：8ha
 間伐面積：8ha
 森林資源活用：6回
 看板修理・設置：28回
 ナラ枯れ調査：50回

参加者数

県内：481人
 県外：202人
 計：683人

樹種

アカマツ

神奈川の森づくり「山北町と湘南海岸林」

神奈川県山北町、茅ヶ崎市、藤沢市



事業概要

町の大部分を森林で占めている神奈川県山北町で森林の機能回復および景観整備を目的として森林整備を行った。活動内容は雑木林の除伐、間伐、草刈り、枝打ちなど。また同じく神奈川の湘南海岸に位置する砂防林の維持管理活動も行った。補植用のクロマツ苗の草取りや砂防林内の下刈、ツル切り、間伐などを実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの影響により、思ったような活動ができずまた参加者を募集するのも苦勞する場面が続いた。それでも熱心な参加者のお陰で整備活動も順調に進めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・なかなか活動ができない時も続いているが、感染症対策を実施した上で整備していただき感謝している。今後も継続的にお願いしたい。(山北町役場)

参加者の声

- ・外出自粛が続いていたので屋外で体を動かすことができ良かった。(20代男性)
- ・初めてだったが、森がキレイになる活動に参加でき「貢献している」との実感もてた。(30代女性)



海岸林での草取り



海岸林での間伐体験



下刈 (山北町)



森林整備 (山北町)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.47ha

除伐面積：2.12ha

間伐面積：3.1ha

参加者数

県内：44人

県外：63人

計：107人

市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」

滋賀県多賀町



事業概要

かつてマツ林だった高取山ではヒノキ人工林として整備が進められている。この場所で除伐・間伐などを行い森林の維持活動に貢献するための活動を行う。間伐材を製材し木材として生産される工程を学ぶこともできた。また地元森林組合職員を講師として森林教室を開き、水源涵養を理解する機会にもなった。

事業成果

高取山では、今年度はじめて活動を行ったが、間伐に加えて製材を経験する機会もあり、木材が生産される工程を学ぶ機会につながった。参加者もより身近に森林を体感することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・こういった時期ではあったが、各地から参加いただきありがたかった。これからも継続して活動を実施してもらいたい。(地元森林組合職員)

参加者の声

- ・林業における一連の作業を経験することができ、色々な知識が必要であること、また労働に対する評価が木材の価格として反映されにくいことがわかった。
- ・私たちの生活に森や自然が大切なことが分かったので緑を大切にしていきたい。



伐採の見学



間伐体験



製材体験



森林教室

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：3.42ha

間伐面積：3.42ha

参加者数

県内：4人

県外：22人

計：26人

高田松原再生整備事業

岩手県陸前高田市



事業概要

2011年の東日本大震災の津波で壊滅的な被害にあった名勝・高田松原(岩手県陸前高田市)。2017年以降は地元NPO団体が中心となりクロマツの植樹も始められている。毎年6月から10月にかけては、植えられたクロマツの苗の背丈ほどの雑草も生い茂っているため除草活動を行った。あわせて震災の様子を学び次世代に語り継ぐことを目的として、地元ガイドと市内の震災遺構を巡り、震災当時の状況や復興の様子を学ぶ防災学習も行った。

事業成果

今年初めて実施したボランティアプログラムだったが、東北地方在住の方を中心に参加者も集まった。海岸での除草活動と併せて陸前高田市の復興状況などを巡る防災学習も行ったことで、参加者の学びとなる活動を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除草活動は地味な作業だが、皆さん一生懸命に取り組んでいただき、一面がきれいになった。これからも来てください。(指導員)

参加者の声

- ・高田松原の再生に向けて、少しだけれど力になれた感じがした。(30代女性)
- ・日程的に仕方なかったが、体力的にはあと1時間ほど作業できたと思う。(20代男性)
- ・震災から9年経つが、こうして陸前高田まで来て地元の方と一緒に作業することで改めて震災について考える時間になった。(20代女性)



除草



除草



マツについて学ぶ



防災学習

実績とりまとめ

作業内容

除草：1回
防災学習

参加者数

県内：6人
県外：7人
計：13人

北浅川上流地区の森にホテルを飛ばそう！

東京都八王子市



事業概要

目的は、森林内の土壌改善を通じて枯れた沢を復活させ、森全体を健全化させるとともに水源かん養機能を高めながら生物多様性の高い豊かな森を創出する活動を行うことである。主な活動は以下のとおり。①沢の水の流れを停滞させている箇所や土砂等の除去、②沢周辺の法面で表土が流出しやすくなっている箇所に片づけた枝葉を利用して小規模な土留めを作製、③炭や有機物を活用した土壌改善、④随所に溝や穴を掘ることでの大地の呼吸口づくり、⑤①～④を安全に実施するための活動エリアの危険木等の伐採など。

事業成果

沢の詰まりを除去したり、流れを滞らせる石などを退けるなどの造作を続けた結果、長く雨が降らない時でも、わずかながら水が残る場所なども現れ、以前は見られなかった水棲生物を確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林再生や生物多様性の創出のため、場当たりの生きものの放流をせずに環境そのものを改善していこうという会の活動は高く評価している。しかし、植物については地域の植生について配慮していただきたい。例えば、高尾の在来のモミジは赤くならず黄葉するのが特徴であり、国内外来種には該当しないからと近県から持ち込んで安易に移植せず、本来の高尾の自然を守ってほしい。(植物専門家)

参加者の声

- ・故郷の森を守り、地球環境を守って子どもたちまで繋げていきたい。こういう機会があってとても助かりました。これからも継続して参加し、森の手入れのやり方を身につけたい。(30代女性)



沢の整備



道際に植栽



森林整備



倒木処理

実績とりまとめ

作業内容
地拵え等：14回

参加者数
都内：50人
都外：10人
計：60人

富士山で学びながら広葉樹の森林を復元する活動

静岡県富士市



事業概要

静岡森林管理署との協定に基づき、富士山南麓の国有林を天然林に復元する活動1996年の台風による被害を受けたヒノキ人工林跡を広葉樹林に戻すための維持管理、保育活動。遷移を進めるために天然林の構成樹種を補植する。補植に使用するために天然林から種子や山取苗を採取、苗木の育成を行う。季節に応じて春期に補植、夏期に下刈・ツル切り・低木類の刈り払い等、秋期に種子採取、通年の保育作業として苗木の育成、土壌保全等を行う。同時に自然での活動体験や富士山の自然を観察する機会を設けて生き物、生態系・森の成り立ちに関する知識を深め、環境教育の効果をあわせて持った活動にすることを目標としている。

事業成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、団体を受入れ体験学習する活動の企画は難しかったので、日帰り現地講

座を企画した。森づくり関連の活動については、参加者や移動手段、宿泊施設等を事前に調整することにより7月、9月、10月に保育作業、9月、10月に種子採取を計画通りに実施できた。学生の実習参加も日程・人数とも限定されたが10月に実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナの影響により学生の参加は影響を受けてしまう。大学の対応を含めて、今後もよく相談しながら実施内容等検討していく必要がある。(東京農業大学教員)

参加者の声

- ・参加できるか心配していたが、フィールドでの活動に参加できてうれしい。
- ・社員で参加できる取り組みを探していた。参加して充実した活動だったため今後も参加を検討したい(企業の組合活動担当者)



ブナの種子採取



大学生が育成した苗の仮植え



カシノナガキクイムシ被害木の撤去作業



樹木学講座

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：350本
 下刈面積：0.7ha
 除伐面積：0.7ha
 自然観察会：4回
 種子採取：3回
 活動報告会：2回

参加者数

県内：8人
 県外：89人
 計：97人

相模湖若者の森づくり 知足の森整備活動

神奈川県相模原市



事業概要

中高生が主体となって、放置林を月2回をベースとした間伐・枝打ちの森林整備作業を行う。シカの侵入の影響について調査を行い、シカだけでなく小型哺乳類も多く撮影された。さらにアライグマといった外来種も確認されている。整備された森を使って地元小学生を対象とした体験学校、高等学校スーパーサイエンスハイスクールの実習も行うことができた。

事業成果

東京学芸大学内の研究センターとの連携が進み、コロナで自粛する定例活動も複数回あったが、参加する中高生がコンスタントに増加し、毎回15~20人ほどが参加している。調査も多様化してきている。また、地域の製材所との連携も進み、材の有効活用が進み、大学研究施設で様々な体験に活用できるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材を有効活用するお手伝いをさせていただいた。中学生たちは試行錯誤しながら作ることを通して、木スキルだけでなく人と関わる力をメキメキ向上させている。自分の手で物を作り、それを人に使ってもらうことでアイデアを広げ、活動の豊かさにつながればと考えている。(VIVITA株式会社)

参加者の声

- ・作業の中で一番楽しかったのは間伐です。木の切り込み加減を調節しながら伐ることが難しかった。ロープを引いて木を倒した。ロープを引いている途中に他の木にぶつかるともあったが、ロープでうまく方向を変えることもできた。達成感があった。(中学1年女子)



枝打ち体験



間伐体験



体験学校竹ドームづくり



間伐材の活用、大学図書館にベンチ寄贈

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.2ha
 間伐面積：1.3ha
 体験イベント：1回
 高校実習：1回

参加者数

県内：100人
 県外：285人
 計：385人

竹林の持続可能な保全と活用

神奈川県横浜市、中井町



事業概要

竹林の持続可能な保全と活用を進め、タケが地域で循環する仕組みを創ることを目的に以下の活動を行った。5カ所の竹林保全活動を93日間実施。次世代育成活動を竹の学校を中心に管理講座、体験教室、竹工芸講座、出前講座等を29回実施。間伐材活用プロジェクトとして竹灯籠を2回開催、タケノコすめ加工販売を実施。竹林活用、地域活性化プロジェクトとして竹灯籠祭2カ所、タケノコ掘りイベントを2カ所で実施した。

事業成果

地域資源を活用したイベントでは地元町内会、学生団体、

小学校、企業等の連携がさらに広がり、間伐作業への参加者も増えており、よい循環ができてきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・「タケについて学びたい」という学校関係者の声も多数寄せられている。また、地元施設関係からのコラボの要請も寄せられている。

参加者の声

- ・「竹灯籠祭」は、すっかり地域の風物詩となった。(男性)
- ・小机は、竹林に癒される隠れた名所的な場所です。(男性)
- ・「竹灯籠祭」は、小さな子どもも参加できるので楽しい。(女性)



竹林整備



竹林整備



タケのチップ化



竹灯籠祭

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：10ha
 竹灯籠祭：2回

参加者数
 県内：3934人
 県外：400人
 計：4334人

都市の里山資源の活用推進

神奈川県横浜市



事業概要

都市の里山保全活動では、活動によって産出する間伐材や樹林地内の植物等が資源は、自団体が活用する他は、ほとんど活用されていない。持続的な里山保全及びその活動を推進するため今年度は、よこはま里山研究所が活動する川井緑地に参加するボランティア、スタッフを中心に、里山の資源有効活用のための研修会を開催した。①森のめぐみお香材料を学ぶ講習会、②グリーンウッドワーク研修会、③自然豊かな「川井の森」で癒しの体験講習会、④水中乾燥研修会 また、当該団体の定例活動日である第2、第4日曜日に、樹林地整備や製材作業を継続して実施した。

事業成果

過年度に取得した技術を活用し、里山保全活動で産出する里山資源の活用を検討した。

今年度、グリーンウッドワークによる生木の活用、材の乾燥の理論や技術、また、今まであまり注目されてこなかったスギ、ヒノキのお香材料としての活用など、新たな活用法を学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・お香材料を学ぶ講習会：材としての活用ばかり考えていたが、他の活用法を知ることができたことは良い機会であった。
- ・グリーンウッドワーク研修会：実際に道具の使い方を学ぶことで、次年度以降の活用につなげられると感じた。今年度は道具の数が十分ではなかったため、ワークショップを開催する場合は、道具類の整備が必要と感じた。(当団体の研修担当理事)
- ・水中乾燥研修会：理論的になぜ乾燥中に木が割れるのかを学ぶことができ有意義であった。(当団体活動メンバー)

参加者の声

- ・森にお香の材料になる多種の植物があることがわかり勉強になった。(40代女性)
- ・生木を加工する楽しさを体験することができた。(30代男性)



定例活動 伐採



定例活動 製材



「お香材料を学ぶ講習会」の材料



生木の加工を学ぶ「グリーンウッド研修会」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha
森林資源活用研修会：3回

参加者数

計：363人

都市近郊の新しい里山づくり

東京都八王子市



事業概要

目的は、里山の手入れによる生態系回復と地域のシンボリックな里山にすること。また、その過程において環境と人の生活を考え、この先も具体的な取り組みを実践していくこと。主な活動は、竹林整備、ササ除去、広葉樹育苗および植樹、古木の除間伐整備。地域住民との緑地内材料（主にタケ）によるベンチや堆肥圃製作、落ち葉および竹の粉碎チップによる堆肥づくりなど。

事業成果

地域住民との日常的な作業展開。週3日、都合の良い時

間に少数で進める作業を展開（コロナの影響もあり）。これにより、ボランティアがより自分の好きな作業を計画的に展開できるようになり、活動がより主体的にできるようになった。タケやササのチップ化により、林内がかなり整然としてきて、地域の方々からの声掛けが多くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ここ1年、看板による告知を含め日常的に作業に入っているため、顔見知りとなり、直接的な情報も得れるようになった。暗くて一人歩きが怖かった緑地が、徐々に明るくなっていくのは楽しい。（緑地を散歩している方）



子どもたちも参加して竹林整備



2竹材の粉碎



林床の整備



竹材でベンチ製作

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：100本
下刈面積：3ha
除伐面積：2ha
間伐面積：1ha
講話：2回

樹種

コナラ、クヌギ、カエデ

熱海市の森林整備と木材加工

静岡県熱海市



事業概要

放置林の再生化、間伐材の価値向上のための加工、地域貢献のために間伐材加工品を市内に還元したり市民の方々を中心とした体験コンテンツを提供する。「みんなでつくる森づくり」を通して熱海の森での課題や解決策のひとつを感じてもらい取り組みを実施した。

①森林の整備事業:間伐を引き続き実施し、搬出のための道づくり、その後セラピーロードとしての活用。自然郷・姫の尾・紅葉が丘の放置林の再生化に取り組んだ。

②間伐材の利用・加工事業:間伐・搬出した木材を、製材加工をする取り組み。企業から依頼を受けた間伐材プランターや熱海市内レストランからの依頼の間伐材プレート&ウッドチップ。マルシェやイベントでの加工体験も行った。

事業成果

市有林である自然郷では、「山や人に優しい道づくり」を

学び、より搬出の可能性を拡大できた。また、自然郷管理会社とのつながりもでき、自然郷に住む方々とのつながりをつくるべくワークショップなどを実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・当初の5カ年計画で熱海市が掲げていた「モデル林を作ること」「セラピーロードとして開放していくこと」に一步步ずつ着実に進化している。今後も地産地消な取り組みを応援している。(熱海市役所職員)
- ・我々の森をキコリーズの森として活用してもらいたいと提案したのが4年前のこと。森林浴フィールドエリアが完成するの楽しみだ。(森林所有者)

参加者の声

- ・森の作業も大工さんの仕事も楽しかった。(40代女性)
- ・ヒノキの皮はバラバラで触って面白かった。(小学生男子)



間伐



間伐した木の枝払い



間伐材の搬出



間伐材の加工体験

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.2ha
森林資源活用：2回

参加者数

県内：6人
県外：6人
計：12人

間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全

愛知県岡崎市、長野県根羽村



事業概要

目的は、森林の間伐整備を行い下流域に良質な砂と水を持続的に供給する森づくりである。主な活動は以下のとおり。①関係地域の森林組合等会議に出席し情報収集と交流に務める。②愛知県県有林、岡崎市額田地区私有林、長野県根羽村の森林で年間約50日(週1回)、森林測量・下刈・除伐・間伐活動を実施し森林の整備活動を進める。③毎回の間伐整備活動で「間伐体験希望者」を受け入れ、間伐作業の重要性の啓蒙・啓発と新会員の確保に努める。④会員の間伐技術の習得と向上を図る。

事業成果

間伐作業の効率化と安全性の向上を目的にした架線集材により間伐を進めることができた。また、年間を通じて26人の間伐体験希望者を受け入れることができ、5人が新規会員となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐こもれび会は、年間を通して間伐活動を実施している。熱中症対策として一部会員は空調服を使用しているが、参加者全員の熱中症対策が必要だ。(会員)
- ・間伐体験者に貸し出す「安全装備(ヘルメット・防振手袋・チャップスなど)」や「チェンソー」の充実が必要である。(会員)

参加者の声

- ・間伐作業体験者の感想や画像・動画を見て活動を知り間伐体験に参加した。全てが新鮮でした。(40代女性)
- ・新緑の中での間伐作業を体験。夏、秋、冬の間伐作業にも参加してみたい。(男性)



間伐材の集材



架線集材



参加者



間伐など森林整備の意味を伝える看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.18ha
 除伐面積：5.18ha
 間伐面積：5.18ha
 森林資源活用：94㎡
 作業道整備：170m
 ワイヤー設置：170m

参加者数

県内：456人
 計：456人

資源利用と環境学習によるやまんばの森再生

滋賀県米原市、多賀町



事業概要

放置された里山を持続的に保全するため、森林資源を薪等として積極的に循環利用するとともに、森林環境学習・自然体験により将来の人材を育成した。また、老朽化した環境学習等の拠点施設の一部について修繕を行った。

事業成果

何度かコロナ感染拡大の波があったが、相互に感染予防措置を行ったことで、屋外を基本とする活動ではクラスターの発生は起きないことが分かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・墓等を損傷することなく伐採を行っている状況を見て信頼感が生まれた。また、隣接する保育施設に影響を与えそうな所有地の樹木伐採の依頼に応えたことで大変感謝された。(森林所有者)

参加者の声

- ・高所伐採を含めチェーンソー作業に関心があり、安全技術を身につけたうえで、もっと積極的に参加したいと思うようになった。



里山整備



薪づくり



高所での枝払い



タケ伐採(森林環境学習)

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.1ha
 森林資源活用：60.5台
 (2tトラック)
 施設修繕：5回
 高所伐採作業：18回
 自然体験：7回
 森林環境学習：2回

参加者数

県内：403人
 計：403人

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市



事業概要

京都府立大学演習林の森林環境の改善を目的に、植林を行った谷で下刈や低木の除伐を行った。枯死竹や古竹が多く放置されている竹林環境の改善を目的に、枯死竹や古竹を伐採した。

事業成果

サカイ谷においては、ヒノキの稚樹が十分に成長し、そのうえヒノキの成長を阻害する下草と低木を伐採することができたので、来年度は下刈を行う必要なくなった。キノエ谷では今年度分の下刈は完了したが、ヒノキの稚樹が成長しきっていないので、来年度以降も引き続き下刈を行う

必要がある。竹林整備は作業回数が少なかったため、次年度以降も引き続き整備を行わなければならないと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスでサークル活動が制限されるなかで部員たちができることを自分たちで探して活動を行って、素晴らしいと思った。(森なかまOG)

参加者の声

- ・大学の実習等では経験できないことをサークルを通して体験でき、森林保全に関する知識や学びが深まった。これらの活動を後輩に伝えて今後も継続的に森林保全に携わりたい。(20代学生)



作業前ミーティング



下刈



竹林整備



下刈作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.28ha
竹林整備：1回

参加者数

府内：46人
計：46人

里山整備事業

兵庫県加東市



事業概要

①温暖化の要因であるCO₂の吸収を高める。②森林資源の育成と有効活用。③野生動物の生存エリアを確保し獣害を減少させる。④土砂くずれ等の災害発生要因の減少。⑤地域の農業・林業が衰退し過疎化が進む地域において、森林再生により地域活性化に貢献する。⑥森林内での生物多様性について調査する。

実施内容は下記のとおり。①下刈、倒木及雑木除伐。②雑木の除伐・間伐、スギ・ヒノキの間伐、森林再生により林内通行が可能になり、学童の遊び場、市民来場が可能になった。③バイオエネルギーの需要は低く採用見送り。薪材、薪割台を試験提供。④集いの場であった旧東屋付近の雑木などの除伐を再度実施、森林の立入を可能にする。⑤森のようちえん見の体験学習。⑥林内に放置されたため池があり今後他グループと生物の生息を調べる。

事業成果

本年度は前年実施分より隣接の森林整備を実施する。寺から民家へ下る区域の森林で面積1.4haである。

事業をよく知る関係者の声

・かつては、寺のふもと民家が立並び、墓地、神社、地藏堂も周辺に点在し、地域住民と寺を中心にしたコミュニティを守られていた。高齢化と過疎化が進み、活性を失って久しい。今後は寺従事者、参拝者、地域住民との交流増が見込める。ボランティアで地域の整備を進めていただけなのはありがたい。(住職)

参加者の声

・整備した森林内で宝探しを行い、園児たちの盛り上がりが見られ楽しく過ごすことができた。来年も参加したい。(森のようちえん)



森林整備活動前の放置状態の人工林



森林整備活動後



森林整備活動後



森の宝さがし(森のようちえん)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.4ha
樹勢回復：2000本
下刈面積：1.4ha
除伐面積：1.4ha
除伐本数：1500本
間伐面積：1.4ha
間伐本数：500本
通路設置：20m

参加者数

県内：187人
計：187人

樹種

スギ、ヒノキ、広葉樹

国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり

兵庫県神戸市



事業概要

目的は、様々な国籍の児童・学生・若者を対象に新たなSDGsプログラムとして植樹や間伐等の体験コースを整備し、地域の里山や森林の復元に取り組むことである。主な活動は、①植樹、苗木の手入れ、下刈、②中低木の移植、③間伐、ナラ枯れ樹木の伐採、④竹林の整備、間伐材の有効活用、⑤環境教育を含むSDGs教育、⑥チェーンソー取扱い研修、チェーンソーの活用など。

事業成果

①定期的に森林管理を継続しながら78本の苗木を植樹できた。②植樹やタケ伐採・資源有効活用のコースを含めて初めて5つのSDGs体験コースを整備し、高校生を対象としたSDGs校外学習を実施できた。③鉄塔付替え工事に伴う伐採計画が関電グループから提案されたが、現場での打合せ後、当団体で移植体験ワークショップを企画して26本を移植できた。④チェーンソー取扱い研修会を2回実施してメ

ンバーが技術習得。当団体活動エリア以外にも六甲ハイキングコースそばのナラ枯れした木を伐採。

事業をよく知る関係者の声

- ・多様な参加者が集って活動をすることで、楽しみながら社会の課題を発見し課題解決を試みる取り組み。植樹活動は、自然をこれ以上壊さないようにし、私たちの未来を私たちの手で創るという積極的な取り組みだ。若い人たちが自分たちの自然を大切にしていけるような環境づくりを行うという意味で大変意義のある活動で、今後も引き続き活動していただきたい。(大学准教授)
- ・日本に居ながら国際交流を体験できる場であり、森林保全・里山復元の大切さを伝えながらこの取り組みを更に充実させていってほしい。(協賛企業担当者)

参加者の声

- ・伐採の可能性があったモミジやサクラを移植した。命の大切さや多様性を感じる体験となった。(20代大学生)



森林整備と中低木の伐採



チェーンソー取扱い研修会



タケ伐採 (SDGs 校外学習)



植樹 (SDGs 校外学習)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.9ha
植付本数：78本
下刈面積：2.0ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：1.2ha
森林資源活用：150本
移植：26本
SDGs環境教育：13回

参加者数

県内：644人
県外：9人
計：653人

樹種

サクラ、ムクノキ、ザイフリボク、ヤマコウバシなど

鹿ノ台周辺緑地の再生事業

奈良県生駒市



事業概要

12haの鹿ノ台周辺緑地は住宅開発から40年が経過し、緑地や隣接河川へのゴミ不法投棄及び緑地全体が暗く密林状態にあったことから、地域住民から苦情が寄せられていた。そこで、生駒市と協議の上で、これらの課題を解消するために、以下の活動を実施した。①住民主体による間伐、下刈、枯損木処理、不法投棄ゴミの集積など林内整備。②良好な沿道景観を形成するため花木類を植樹。③疎林化した箇所では、既存植生を勘案しヤマザクラ、ヤブツバキほかを植樹。④未利用地の活用ではチューリップのオープンガーデンとし、地域住民の憩いの場として一般に公開した。活動の結果として、四季彩を身近に感じられる明るい樹林地となった。

事業成果

継続的な林内整備に加えて、特に急斜面地の侵入タケ間伐や植樹などの作業を実施。コロナ禍で、計画通りに進ま

ない点もあったが、若手の参加もありコミュニティーの広がりを得ることができたことで、住民自ら地域を見直す良い機会となり新たな発見につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・密林化した緑地、部分的に荒廃した急斜面地などへのゴミの不法投棄や防犯防災面を解消し、生活者の更なる地域愛を育むことができた。これまでに2000本以上の植樹を行い、シニア層の社会貢献は、SDGsを地域から創生した活動である。(生駒市長との面談で)
- ・構成員の高齢化に伴い、次世代への継承を考えること。(鹿ノ台自治連合会)

参加者の声

- ・自分たちの街にこんなに豊かな森があるとは知らなかった。身近な緑を大切にしていきたい。(30代子育て世帯)
- ・良好な自然景観が生活に潤いを与え、安らぎを感じている。(70代男性)



林内整備



管理道の補修



シラカシ、ヤマザクラほかを植樹



未利用地を花畑に

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約1ha
 植付本数：80本
 下刈面積：約6ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：約2.5ha
 作業道修理：約3km

参加者数

県内：497人
 計：497人

樹種

シラカシ、クロガネモチ、ヤマザクラ、ヤブツバキほか

憩いの場として豊かな自然の森づくり

奈良県奈良市



事業概要

県立矢田山遊びの森の多くの方が森に親しみながら歩く沿道において、手入れが遅れ枯損木や雑草が繁茂し、景観と小動物のすむ自然環境を阻害している所の整備を実施した。内容は主に下刈とナラ枯れをして倒木となると危険な枯損木処理であり、公園開設時に植樹したモミジなどを残し景観の回復に努めた。間伐で出た木材は薪やクラフト製作の材料として利用した。森林整備に関わる活動の意識向上のため、講師による森林環境教育を実施した。

事業成果

すでに育っているモミジなどの景観の回復を行うため、伐採する木を選び下刈時に伐らないように明示や注意をしながら行った。また、年々ナラ枯れ後に放置された枯損木

の伐採の危険性・難易度が上がる状況であったが、メンバーの伐採や工具の取扱い技術の向上をしながら安全に作業ができた。若者の新規参入や募金への協力が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動によりハイキング道が明るくなり森林環境が改善された。また、薪を作り公園管理棟での利活用が進み、結果として今冬は灯油を購入することなく燃料代削減のほかCO₂削減などの効果がみられた。(公園管理者)

参加者の声

- ・年間を通じて整備をすることで環境が改善されていくのが感じられた。コロナ過であったものの、安全に配慮しながら野外活動をすることで健康的な森林活動ができた。



道周辺の下刈



枯損木伐採



森林整備



森林環境教育

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：75本
下刈面積：1ha
間伐面積：1ha
森林資源活用：14本

参加者数

県内： 8人
県外：122人
計：130人

尾の瀬山ヤマザクラの森と竹林の整備事業

香川県まんのう町、綾川町



事業概要

山火事で焼失した森林を再生して環境保全を図るために植栽したヤマザクラ植林地で下刈と補植を行った。荒れている竹林を適切に管理することで竹害を抑えるために伐採など整備を行った。

事業成果

ヤマザクラ植林地は傾斜地での作業だったが、仲南町森林組合や香川県西部林業事務所に安全指導を行っていただいた。参加者は下刈や補植を行うことで次の作業につなげることができた。竹林整備は新型コロナウイルス禍により実施が心配されたが新規参加者がいて、さらなる広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

・継続した下刈等の整備活動は、その作業の大変さとともに

に、植林したヤマザクラの成長を確認することで、森林保全活動への参加意識の向上につながる意義ある活動と感じた。(労働組合執行委員長)

・各参加者が十分に作業できるよう、事前の説明にもう少し時間をかけてはいかがでしょう。(実行委員会担当者)

参加者の声

・下刈は傾斜地での作業だったので大変だったが、一人一人ができることを取り組んでいくことの大切さを感じた。(40代男性)

・普段の生活では自然と触れ合う機会が少ないため、子どもの教育にも非常に良い活動と思った。(30代女性)

・春になったら開花しているヤマザクラを見に来たい。(中学生女子)

・生い茂った竹林の中は暗くて危なかった。(20代男性)



ヤマザクラ植林地の下刈と補植



作業参加者



竹林整備



竹材を粉碎

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約0.1ha
 植付本数：70本
 下刈面積：約1ha
 竹林整備：1回

参加者数

県内：78人
 計：78人

樹種

ヤマザクラ

北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動

岩手県八幡平市



事業概要

目的は、岩手県八幡平市・旧松尾鉱山跡地の植生再生のために実施してきた植樹について、さらなる定着や生長をめざした育樹活動とその活動による環境意識啓発である。主な活動は以下のとおり。①すでに植えてきた樹木（2014、2016年度植樹）の剪定と追肥、枯損箇所への補植、②冬季の風雪から幼木を守るための防風柵の設置・補修、③育樹のための作業手順書の作成と事前講習・事業説明、現地指導。

事業成果

参加者が減ったものの2014・2016年度に植樹した苗を対象に計画通り実施できた。団体参加者のうち高校（仙台市）は毎年生徒が替わるため新規参加者といえるが、社会人は

ほぼ継続経験者。作業手順の動画を作成し事前視聴をお願いした。

事業をよく知る関係者の声

- ・生徒にとって穴掘り器や剪定バサミなど不慣れな道具も多く、予定よりも時間がかかることを見込み、引率教員にも実務的な事前学習をしてもらった。作業手順の動画を見せていただき、作業概要はつかめたと思う。（高校教員）

参加者の声

- ・事前に作業手順の動画を視聴でき、継続参加のため何となくこなしていた作業手順が良くわかった。



ナナカマド、ミズナラを植樹



追肥用の穴掘り



防風柵の設置



剪定

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.42ha
 植付本数：320本
 樹勢回復：1680本
 下刈面積：0.2ha
 防風柵作り：40組

参加者数

県内：128人
 県外：533人
 計：661人

樹種

ナナカマド、ミズナラ

世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業

群馬県川場村



事業概要

放置されている川場村内の人工林を下流域の世田谷区住民が地元の地権者等と協力して整備する。主な活動は、①地元住民と協力した除伐・枝打ち・間伐、②植林とその育成のための下刈、③間伐材を燃料に、近くにある広葉樹や竹林・松林の整備で発生する材などを原料として炭焼きならびに地元で計画されているバイオマス利用への協力。「循環型」の森づくりのサイクル完成。

事業成果

川場村で進められていた間伐竹材のバイオ肥料づくりへの

協力の第一弾として間伐した竹材の粉碎機による材料づくりを実施した。ただ、コロナの影響で施業現場作業ができる参加者が大幅に減り、間伐などの施業実績が残せなかった（前年度の1～2割程度）。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材運搬の問題から村のプロジェクトへの協力が難渋されていた。しかし、今回運搬については村で対応できたため、バイオ肥料づくりへの協力を始めていただいたことは本当にありがたい。（川場村村長）



間伐（木炭用）



炭焼き



竹林整備



タケ粉碎

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：10本
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.4ha
間伐面積：0.8ha

参加者数

会員：77人
計：77人

津波や大雨等からの災害予防に向けた森林整備事業

千葉県山武市、東京都八王子市



事業概要

減災や大雨による土砂流出の予防と国民の森づくりへの関心喚起から参加機会の創出をめざし、津波被害林や軽度な斜面崩壊のある里山で以下の森林整備事業を実施。

千葉県山武市 (海岸防災林) ①下刈

東京都八王子市 (上川の里特別緑地保全地区) 照葉樹林化が進む里山の再生。①照葉樹林化が加速している人工林の伐採と地拵え、②伐採木を活用して散策路や階段の資材づくり。

事業成果

新型コロナウイルスの影響で、広く市民を巻き込む活動は困難ではあったものの、SDGs の関心が企業を中心に高まったことから、企業ボランティアの受け入れを積極的に行った。これまでにないボランティア層とのネットワークづくりができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・社員ボランティアの受け入れを通じて今後の協業を考えていきたい。意義ある活動だと思うので、できる限りバックアップしていきたい。(社員ボランティア担当)
- ・苗木の活着率が高く防災機能を高めているものとして評価している。(行政関係者)
- ・裾野を広げる取り組みだと思う。(環境NPO)

参加者の声

- ・新型コロナウイルスにより、自然を求めるようになってきた。身体を動かし森も良くなるので、今後も参加を続けていきたい。(40代男性)
- ・ビフォーアフターが分かるボランティアだったので、とても達成感があった。(30代女性)



下刈 (山武)



森林整備 (八王子)



伐り出した間伐材を杭に加工 (八王子)



歩道整備 (八王子)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：6.5ha
森林資源活用：720本

参加者数

都内：368人
都外：164人
計：532人

「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業

神奈川県横浜市、茅ヶ崎市、大和市



事業概要

目的は、森林が有する森林メカニズム機能向上をめざし、課題解決のため、山の学校を継続・開校する事で、地球温暖化防止策と位置づけ国土保全に対しても具体的な解決行動案として「山の学校」を継続、開校することである。主な活動は、水源林保全を体験学習する宿泊型・日帰り型「山の学校」の開校。水源地保全学習をはじめ、間伐体験や上下流域地域の交流、川上地域食材の採集と調理体験等。

事業成果

新型コロナウイルス感染症により、従来形式での活動及び「山の学校」開催は見直しとなった。しかし、今回のような事態を経験して、全く新たな視点から事業の展開を模索することができた。SDGsに興味をもつきっかけとなった、といった声もいただき、事業を通じて水源地・森林保全に興味関心をもたらすきっかけづくりとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍のなかで、自然に触れ、実際に森林保全活動を見て、自らも体験することで、普段当たり前で使用している水や日々の生活が、それらの活動の上に成り立っていることを実感できると考え、参加を予定していた。今後こうした状況のなかでどのような対策を講じ、どのような方法で開催するのが課題だと思った。

参加者の声

- ・泳ぐための水はどこからどのようにきているのか知る良い機会になった。(ジュニアオリンピック通信大会参加者)
- ・自分ができていることをしていかなければと感じた。(ジュニアオリンピック通信大会参加者)



森林や水について学んだ



実績とりまとめ

参加者数

県内：689人

計：689人

命の森づくり2020ー里山自然復元植樹

新潟県長岡市



事業概要

環境保全といのちと心を育む森づくりを行うために、長岡市西部のテーマパーク構想が頓挫して荒廃した丘陵地に、潜在自然植生の構成種によるふるさとの森づくりを行うことを目的としている。また、あわせて植樹地を活かした環境教育を推進する。主な活動を以下のとおり。①植樹地及び周辺の1500㎡の測量と植樹マップの作成、②植樹地のマウンドの造成及び腐葉土等を用いた地拵え、③当法人及びNPO法人関原里山・ぬかやま会の会員と市民による植樹会を開催、④環境教育を推進するための植樹地を中心とする自然観察会の実施。

事業成果

会員及びNPO法人関原里山・ぬかやま会と一般市民並びに本事業の支援企業である長岡信用金庫の従業員等が協力して、荒廃した丘陵地に、潜在自然植生を構成する苗木を

植樹し森づくりの重要性を学ぶことができた。また、自然観察会を行うことによって、樹木の生態系等を理解することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・NPO法人2団体が協力して、植樹地の造成から植樹会の設営・後片付けまで行うことができたのは、会員の負担を軽減する上でもとても良かった。これからの環境保全活動の一つのモデルになる。(NPO会員)
- ・育樹活動を継続して、開発前のようなふるさとの森を復活してもらいたい。(教員)

参加者の声

- ・植樹準備の縄張り、苗木配り、除草に取り組んだ。いろいろな種類の苗木について何も知らなかった私にとって勉強になった。皆で力を合わせ汗をかいたのは楽しかった。(70代市民)



植樹地の測量



モミ殻の散布



タブノキ、スダジイほかを植樹



自然観察会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
植付本数：1298本

参加者数

県内：248人
計：248人

樹種

タブノキ、スダジイ、アカガシ、シラカシなど121種

緑の遺産「胎内」災害に強い森づくり

新潟県胎内市



事業概要

松くい虫被害で喪失した海岸林を再生するため、地域住民や子どもたちといっしょに海岸植栽に適する広葉樹を植樹した。

事業成果

地域住民や子どもたちが継続して植樹活動を行い、地元と協定した面積（2.7ha）の植樹を終えたことから、達成感とともに地域の森との意識が定着した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回5回目の植樹活動で協定した面積の植樹を完了した。地域をあげて取り組んだ植樹活動も一区切りとなった。今後は植えたという絆をもとに地域と森がつながっていくと思う。（緑化推進委員会）

参加者の声

- ・植樹活動に参加して良かった。これからも海岸林を大切にしていきたい。



土壌改良



植樹指導



シロダモ、エノキほかを植樹



植樹手直し

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：2548本

参加者数

県内：200人
計：200人

樹種

シロダモ、エノキ、タブノキ、アベマキ

丹波山みんなの森づくり・防災事業

山梨県丹波山村



事業概要

村中心にある里山だが、急峻で、がれ場であり、どのような整備をすべきか検討する。そして、新たな利活用により、住民の生業創出を目的とする。専門家による調査と並行し、都市の企業ボランティアによる整備、また安全を期するためのプロによる整備を実施した。しかし、コロナ禍により、4回の予定が3回中止になった。安全のための歩道整備などと環境整備の施業は実施した。

事業成果

専門家のアドバイスを関係者全員で受けてから、その活動は、村人の生活に関わる防災の観点、また、生活を豊かにする癒しなどの観点からの整備を考えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業は、単に森づくりを広めるだけではなく、企業、住民、市町村、林業者、コーディネーターそれぞれが関わりをもつことができ、さらに活躍できることが魅力的である。(地元林業者)
- ・森林を活用した地域づくりにも繋がる可能性をもっている。(住民)
- ・防災の森づくりは今後の新たなポイントになるので、村としても協力していきたい。(市町村職員)

参加者の声

- ・森に歩道をつくと歩きやすくなり、また行きたい。木柵づくりは初体験だったが、杭打ちが楽しく、完成後には達成感があった。(参加企業の社員家族)



森林整備



木柵設置



歩道整備



歩道整備後

実績とりまとめ

作業内容

作業道：100m
木柵づくり：220m
歩道整備：100m
歩道作設：100m

参加者数

県内：11人
県外：36人
計：47人

里山斜面林の復旧およびボランティア研修事業

大阪府河南町



事業概要

大雨で流出した斜面林を復旧するための整備作業を行うこと、また参加者の技術向上のための研修講座を開催することである。主な活動は以下のとおり。①ボランティアによる斜面林の修復作業、②動力機械の安全技能講習、③赤十字救急法講習会、④緑化講習会。

事業成果

フィールドの斜面修復作業は、毎年の大雨で継続を余儀なくされており、今年度は昨年新たに生じた土砂崩れ箇所に対応することができた。また作業に不可欠な安全技能や救急法、緑化講習についての専門家を招いた講座開催により、ボランティアによる活動を安全に、また効果的に実施でき、今後の活動にもつなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加の皆さんがとても熱心で、フレンドリーな雰囲気での講習をやりやすかった。野外シミュレーションはもう少し時間があれば、より深められたように思う。(救急法講師)
- ・斜面の修復作業、大変な作業であることが良くわかった。人間にとっては安全のために必要な工事が、自然破壊につながっている側面もあり、今後も両方の視点をもつことが大切。(当倶楽部理事)

参加者の声

- ・救急法のシミュレーションは、救急対応のみならず、日頃のメンバー間の信頼も重要であると感じさせる有意義なプログラムだった。(救急法受講者70代男性)
- ・道具のメンテナンスを学べた。災害事例から、ここまで危険になる可能性を忘れずにやっていきたい。(技能講習受講者30代女性)



作業道整備



カキ、クリほかを植樹



下刈



斜面修復用の土のうづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：10本
下刈面積：0.43ha
斜面修復：0.08ha
作業道整備：30m

参加者数

府内：129人
計：129人

樹種

カキ、クリほか

丹波山のある暮らし再生事業

兵庫県丹波市



事業概要

目的は、森林を活かした地域の住民や都市との交流により、外部人材に関わってもらうことで、持続性のある森林整備を構築すること。主な活動は、12月の植樹祭。その準備として、植樹場所の間伐を実施。災害に強い山づくりをめざすため、植樹する苗はしっかりと根を張る落葉樹を選定し植樹した。

事業成果

定期的な森林の整備に加え、今年度は地区内で、雨のたびに住宅敷地に水が流れ込む課題があり、当該住宅の裏山整備に取りかかることができた。また、丹波市木の駅プロジェクトの「木の駅ストックヤード」への出荷量が市内でト

ップとなった。3回目となった植樹祭では、多くの参加者とともに実施することができた。継続して植樹祭を実施していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・スタッフ側の女性の参加が少なかった。(自治会員)
- ・行政のさまざまな部門(環境・農林・まちづくり)からの理解や協力が得られ、必要なアドバイスや支援を受けながら事業を進めている。(自治会員)

参加者の声

- ・植樹の必要性がよく分かり、勉強になった。
- ・森林整備と防災は近い関係にあることが分かった。(大学生)



間伐



間伐材の搬出



薪割り



モミジ、クルミなどを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha
植付本数：400本
間伐面積：5ha

参加者数

県内：96人
県外：20人
計：116人

樹種

モミジ、クルミなど

入来浜海岸防災林保全活動

鹿児島県日置市



事業概要

入来浜海岸防災林は入来浜集落を保全すると同時に県立自然公園として多くの県民に親しまれている森林であるが、近年松くい虫の害や台風災害により欠損した部分も見られた。

このため、入来浜自治会など地域の住民と当研究所が協働で、欠損箇所にマツクイムシ抵抗性クロマツの植栽と、中下層の暴風効果を得るためシャリンバイの下層木を植栽するとともに、過年度植栽部分の下刈、植栽木の育成を図るための竹穂防風垣を設置した。あわせて、利用者の利便を図るため、歩道へのウッドチップ散布、道標設置を行った。

事業成果

ギャップの生じていた残りの林分に抵抗性クロマツとシャリンバイを植栽すると同時に防風垣を設置して植栽木の健全な育成を図った。また、歩道を整備して利用者の利便性の向上を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- 自治会の活動のみでは、不可能であった植樹活動等が、緑の募金事業を導入することができてありがたかった。今後もしっかりと管理していきたい。(入来浜自治会長)



抵抗性クロマツの植樹



シャリンバイの植樹



林間歩道の刈払い



歩道にウッドチップを敷く

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：400本
下刈面積：0.6ha
防風垣設置：30m
道標設置：5基

参加者数

県内：73人
計：73人

樹種

抵抗性クロマツ、シャリンバイ

